

2015年10月14日

習伯伯の行方

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 行天 豊雄

何かと中国の話題が多い昨今である。天津の工場爆発に始まって、上海株の乱高下、人民元切下げ、成長減速、対日勝利70周年、習近平訪米等々。これらの出来事はそれぞれが何等かの形で中国が現在抱えているさまざまな課題を投影していることは明らかである。その中には中国の前進に暗い影を投げかけるようなものもあれば、明るい光を感じさせるものもある。

株とか為替とかマーケットにかかわる一連の出来事が露呈したのは、中国における経済運営の現場におけるインフラがまだまだ整備されていない事実だった。意志決定や政策履行のプロセスが錯綜しているため効率性や透明性がない。市場との対話は依然不十分だ。習近平改革の大きな柱の一つである国有企業改革は率直に云って、今度どういう方向で進められるのか判らなくなった。分割民営化だろうと思っていた海外投資家からすれば、むしろ当面は統合によって国際競争力を強化する国家資本主義路線への回帰に見える。

汚職撲滅は依然続いているが、それと併行するように、反体制の動きに対する弾圧が強化されている。思想・表現の自由、人権保護、民主化の動きに対して明らかに逆風が強まっている。南シナ海を中心とする海洋進出は全く止まらない。米国が手を拱いている間に、この海域はあっと云う間に中国の空海軍拠点と化してしまった。

習近平政権の立場からすると、最近の事態の進展は悪いことばかりではないことは充分理解しておく必要がある。成長減速は国際的には怨嗟の的になっているが、中国にしてみれば想定内の話だし、今迄のところそれが中国国内経済に深刻な打撃を齎している証しはない。大多数の国民は依然消費水準の向上を享受している。汚職撲滅は国民的支持を得ているし、反体制運動弾圧も一般大衆にとってはまだ他人事である。

戦勝70周年パレードはきわめて単純な国威発揚行事であり、その目的は100%達成された。スタートした時は模倣であろうと、盗作であろうと、今や中国が米国に互する軍事大国であることに国民は納得した。習近平は依然として頼り甲斐のある習伯伯（習おじさん）なのである。

今回の習訪米のきわ立った印象は、習がオバマとの間で懸案の政治的・軍事的課題を

何とか解決しようという意慾を全く持っていなかったということだろう。その代りに刮目すべきだったのは、最初に立ち寄ったシアトルで行なわれた「米中インターネット産業フォーラム」だったろう。習近平を囲んで米国からアマゾン、フェイスブック、マイクロソフト、アップル等々、中国からはアリババ、バイドゥ、テンセント、シャオミイ等々、世界的インターネット企業の CEO が一堂に会したのである。その光景は今や米中両国がインターネット産業で世界を制覇するという新しい大国関係を樹立したことを印象付けるものだった。

中国経済の成長鈍化に愚痴を云っても何の役にも立たない。日本の 10 倍の人口と 2 倍の経済を持ち、5 倍のスピードで拡大しているこの隣人は日本にとっては宿命的な与件である。その隣人がいま歴史的な変化の過程にあり、その行方は定かでない。日本は余程の鋭利で機動的な判断力と対応力を用意しておく必要がある。

(株式会社マネーパートナーズ ホームページへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2015 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>